

日本商業教育学会第20回全国（愛知）大会の報告

愛知学院大学商学部准教授 小見山 隆行

日本商業教育学会第20回全国（愛知）大会が、統一論題として「新しい商業（ビジネス）教育の推進をめざして」を掲げ、平成21年8月22日（土）、23日（日）の2日間にわたって、愛知県日進市の愛知学院大学で開催された。会員・オブザーバー等を合わせて210名余の参加者であった。同大会は、東海部会の愛知支部が担当し、大会会長は尾碕眞氏（愛知学院大学）、実行委員長は小見山隆行が務め、愛知県の会員諸氏並びにオブザーバーの皆様の多大なご協力を得て準備・運営等に当たった。開会式では、岡田修二会長（静岡産業大学）の挨拶のあと、愛知学院大学学長小出忠孝氏、全商協会理事長森田聖一氏、韓国経営教育学会会長の金聖恩氏からの祝辞があった。本年は、創立20周年の節目の年であり、開会行事に続き記念式典が挙行された。長年にわたって本会に功績のあった故菅家昌人、佐野裕郎、清水希益、高橋壽一、勅使河原隆行、中澤興起、山田紀雄、梁在英、渡部清の各氏に功労賞、西谷成昭氏に奨励賞が授与され、山田紀雄と梁在英の両氏から謝辞が述べられた。

会員総会では、平成20年度事業報告及び決算報告、役員改選、平成21年度事業計画及び予算案が承認された。岡田修二会長は任期満了により顧問に就任、後任として中澤興起氏（千葉商科大学）が新会長に選出された。

第1日目は、愛知学院大学商学部客員教授加藤勇夫氏の「名古屋人の気質と経済」と題した講演が行われた。地域の特性は、気候、経営風土、人々の気質、生活習慣、食嗜好などによって異なる。名古屋人の気質は、質素、勤儉節約、堅実性、地味（実利性）、保守性、地元愛着志向、排他性、世間体を気にする見栄っ張り（冠婚葬祭は派手）などが指摘された。また、名古屋企業の主な特徴として、人脈、縁を重視する、地元への愛着がひととき強い、時流に敏感であり、東西の大資本に備え、外部に頼らない自助、自立の堅実経営の風土がある。無借金経営

の財務基盤の安定している企業が多いこと、株式未公開・非上場大企業も多いこと、モノづくりの集積地、リード地域として、保守的でありながらも、進取の気性をもって新技術を導入し、高い製品開発力と技術力を武器に、製品製造出荷額全国一を30年余続けてきている。名古屋人の気質と経済の特異性など、具体的な事例を挙げての話は説得力があり、有意義な講演であった。

研究発表は、統一論題の研究報告として、第1日目に3つの報告が行われた。第1報告、テーマ：「新たな学習指導要領の実施に向けた教科指導等の研究—商業教育の充実に向けて—」；報告者：三田哲朗・西木成男・内田靖・梶寛治の各氏（日本商業教育学会埼玉支部所属）、第2報告、テーマ：「新学習指導要領における会計分野の高大接続教育の在り方について」；報告者：田中英淳氏（岐阜県立岐阜商業高等学校）、第3報告、テーマ：「高等学校での商品開発の取り組み—1校による取り組みから全県への取り組み—」；報告者：上沼雪善氏（愛知県立岡崎商業高等学校）からそれぞれの研究発表が、国枝裕氏（愛知県立東海商業高等学校）の司会により学院会館ホールで行われた。

国際学術交流では、韓国経営教育学会員から12の研究報告が寄せられた。大会当日では、3つの報告が行われた。

第1報告、テーマ：「The study on the understanding of future leadership according to the human needs」；報告者：Lim-Jung Lee氏（YonSei University）、第2報告、テーマ：「韓国の電子租税情報システム活用実態に対する研究」；報告者：林在熙氏（円光大学）・申成植氏（湖原大学）・梁海勉氏（湖原大学）、第3報告、テーマ：「インターネットショッピング市場の変化と対応戦略」；報告者：梁在英氏（柳韓大学）から研究発表が行われた。

研究発表会の後、記念写真撮影が行われ、引き続

き、教育懇談会が午後6時半から、学院会館レストランにおいて、約100名の参加を得て盛大に開催された。大会会長の尾崎眞氏、新会長の中澤興起氏の挨拶があり、次いで、河合昭三氏（本会顧問）の発声による乾杯が始まった。およそ2時間の懇談会は、和やかな中に終了した。

第2日目に入り、統一論題研究助成報告の第4報告、テーマ：「本校における学科改善と商業高校における新しい情報教育の推進について—PBLを導入した新しい情報人材の育成—」；報告者：中村真二氏（静岡県立静岡商業高等学校）、その他の統一論題研究報告として、第1報告、テーマ：「商業（ビジネス）教育に求めるもの」；報告者：水口栄利氏（石川県立津幡高等学校）、第2報告、テーマ：「会社法改正とIFRS収斂の影響について—新学習指導要領との関わりを考える—」；報告者：大原誠一郎氏（新潟県立長岡明徳高等学校）からの研究発表が平野友春氏（愛知県立岡崎商業高等学校）の司会により12号館G105で行われた。第3報告、テーマ：「ビジネスコミュニケーションスキルについて—心のつながり—」；報告者：今井隆弘氏（岐阜県立岐阜卓務野高等学校）、第4報告、テーマ：「商業科目における「経営」と「金融」の重要性—独立科目の主張—」；報告者：炭谷英一氏（神戸市立兵庫商業高等学校）からの研究発表が村田孝夫氏（愛知県立豊橋商業高等学校）の司会により12号館G105で行われた。第5報告、テーマ：「知識経済時代の商業教育—商業高等学校の進学指導の在り方—」；報告者：南谷雄司氏（兵庫県立小野高等学校）、第6報告、テーマ：「他学科との連携における商業教育の研究—農業科との連携を通じて—」；報告者：塚本宏氏（千葉県立下総高等学校）からの研究発表が、大河内俊範氏（愛知県立岡崎商業高等学校）の司会により12号館G105で行われた。

自由論題の報告は、3分科会の会場に分かれて行われた。A分科会では、第1報告、テーマ：「わが国商業教育の連続性・非連続性」；報告者：小見山隆行（愛知学院大学）、第2報告、テーマ：「キャリア教育の課題—The problem of Career Education—」；報告者：戸田昭直氏（浜松学院大学）からの研究発表が、鈴木隆之氏（愛知県立緑丘商業高等学校）の司会により12号館G105で行われた。B分科会では、第1報告、テーマ：「マーケティングにおける顧客志向の意味」；報告者：大藪亮氏（広島

大学）、第2報告、テーマ：「サービス・ドミナント・ロジックによるマーケティング教育の新たな可能性—理論と事例の横断的展開—」；報告者：今村一真氏（兵庫県立西宮高等学校）からの研究発表が、原田政信氏（愛知県立愛知商業高等学校）の司会により12号館G103で行われた。C分科会では、第1報告、テーマ：「明治期の需要構造を中心とした我が国織物業の展開」；報告者：吉田一郎氏（新潟経営大学）、第2報告、テーマ：「国際ビジネス系学部・学科における商業教育の試案」；報告者：白川良典氏（日本大学）からの研究発表が、高塚勲氏（愛知県立春日井商業高等学校）の司会により12号館G104で行われた。

第2日目に、12号館G105の会場にて、文部科学省初等中等教育局児童生徒課産業教育振興室教科調査官の西村修一氏から「商業教育が目指す方向について」と題した講演があった。商業教育の現状と課題、新学習指導要領商業科の改訂のねらい、教科「商業」の育成する人材観、改訂「商業」の教科・科目の目標、内容、改善の概要、今後の商業教育の在り方、高等学校商業教育の目指す方向が明確に打ち出されるなど、有意義な講演であった。講演後、鎌田宗憲氏（愛知県立岡崎商業高等学校）の司会のもとに意見交換会が行われた。閉会式では、平成22年度の次期大会開催地代表として、北信越部会（石川支部）の村井吉雄氏（石川県立加賀聖城高等学校）から挨拶があり、平成22年8月21日（土）・22日（日）の両日、金沢星稜大学を会場として計画を進めていく旨の紹介があった。最後に、実行委員長の小見山より、閉会の辞として本大会開催に当たってのお礼の言葉を述べさせていただいた。



統一論題の発表風景